



倫敦（ロンドン）にて

コロナ禍が開け、2024年8月の夏休みは5年ぶりの海外旅行。パリでオリンピック・パラリンピックが開かれたので、混んでいると思われたフランスは避け、イギリスを選んだ。過去2回は個人旅行で、ウェールズやオックスフォード、ケンブリッジ、ロンドン中心の旅行をしたが、まだ英国周遊の旅行をしていなかったため、JTBの「絵画のような風景に出会う旅 湖水地方・コッツウォルズ・ロンドン8日間」のツアーに申し込んだ。いつもの「ランドオンリー」で、英国周遊ツアー料金の他に、往復の飛行機、ホテルを自分で取り、移動の旅費、食事代を払い、ツアーとは別の個人旅行も楽しみ、結局10日間の旅行をした。飛行機はJAL。JGC会員でもある。

ツアー旅行はさておき、その個人旅行の一部を紹介します。

ロンドンでまず行ったのが、「ウォレス・コレクション」。実際に侯爵が昔暮らしていたお屋敷が、現在そのまま美術館として使用されている。比較的小規模ではあるが、見どころ満載。15世紀から19世紀にかけての世界的に有名な美術作品、装飾美術作品及び18世紀フランスの広範囲にわたる絵画作品、家具、武具、甲冑、磁器、そしてオールド・マスターの絵画作品を25室のギャラリーに展示している。玄人受けする絵画、装飾品、トルコ、アラビア系の武具、鎧、刀剣の収集が素晴らしい。パリオリンピックで日本がフェンシングで活躍したが、本物のトルコや中世の騎士の刀剣は美しいというより怖いぐらいの迫力がある。作品を外部貸出していないため、ここでしか見られない貴重な一級品展示品ばかり。昔の英国貴族の贅沢な生活と財力を垣間見せてもらった。

中庭を覆う透明ガラスの天井付きの中庭で、家内と英国のお茶菓子のスコーンにジャム、クロテッドクリームを塗って紅茶の付いたクリームティー（アフターヌーン・ティーの一種）を美味しく味わい、ロンドンに着いて初めてリラックスした至福のひと時を過ごした。運ばれてきたお茶の容器は、意外にも日本の南部鉄瓶。保温性があり、いいのかも。

続いて、「テート・ブリテン」へ。テムズ川の北岸にある美術館。昨年、大阪中之島美術館でテート美術館展があり、ターナーの作品を中心に鑑賞した。18世紀末から現代までの光をめぐる、ウィリアム・ブレイクやターナー、



ジャン・オノレ・フラゴナールの「ブランコ」



フランソワ・ブーシェの「ポンパドゥール夫人」



ミレーの「オフィーリア」

非常に細かい部分まで描かれており、この絵より伝えたい事がたくさんあるとひしひしと伝わってくる。

コンスタブルから、モネなどの印象派、そしてジェームズ・タレル、オラファー・エリアソン、草間彌生ら現代アーティストまで、時代や地域、ジャンルを超えて「光の作品」を俯瞰できる会場構成で、多様な光の表現に包まれる空間で感銘を受けたが、一番有名な「あの作品」が来てなかった。

それは、英国の美術作品の中でも、最高傑作と言われる、ミレーの「オフィーリア」。一度目にとると忘れられない、美しい描写が人々を魅了し、現在でも多くのファンがいる。この旅行前に大塚国際美術館で観てきていたが、今回初めて念願の本物との対面になった。この作品に描かれている女性は、ウィリアム・シェイクスピアの悲劇『ハムレット』の主人公の恋人、オフィーリア。「尼寺へ行け」は有名なセリフだ。夢の中を漂っているようなオフィーリアの姿、虚ろな表情は、緻密な写実描写でありながら、むしろ非現実の幻想的な世界を思わせる。オフィーリアを囲むように水に浮かぶ草花も印象的。これらの意味を理解すると、絵画に込められた切なさを、より深く感じ取ることができる。描かれている花は12種類。

これらの花言葉からは、正気を失い、色々な感情が入り交じったオフィーリアの気持ちがこの情景となっていることがわかる。絵画からこのような情景、感情を同一視できればと、何回も目を凝らしてみた。

戯曲「ハムレット」
 の中ではこのように
 情景が記されている。
 「(前略) すてきな花
 輪を、垂れた枝にか
 けようと、柳によじ
 登ったとたん、意地
 の悪い枝が折れ、花
 輪もろとも、まっさ
 かさまに、涙の川に
 落ちました。裾が大
 きく広がって、人魚
 のようにしばらく体
 を浮かせて——そ
 のあいだ、あの子は

ケシ	死
スマレ	貞節
ひな菊	無邪気
パンジー	無駄な愛
バラ	愛
柳	見捨てられた愛
いらくさ	後悔
野バラ	孤独
西洋ナツキソウ	幸福
ミソハギ	愛の悲しみ
勿忘草	私を忘れないで
きんぼうげ	可愛い子

古い小唄を口ずさみ、自分の不幸が分からぬ様子——ま
 るで水の中で暮らす妖精のように。でも、それも長くは続
 かず、服が水を吸って重くなり、哀れ、あの子を美しい歌
 から、泥まみれの死の底へ引きずり下ろしたのです」。

また、夏目漱石の名作「草枕」。熊本県玉名市の小天（お
 あま）温泉を舞台にし、非人情の世界を描いた名作。実は、
 この小説が書かれた背景には、ミレーの「オフィーリア」
 が関わっていると言われている。2年間のロンドンでの海
 外研修を言い渡された夏目漱石。異国の地で神経衰弱に
 なってしまった彼の精神を救ったのが、ミレーの「オフィー
 リア」であった。漱石は、「この女性は、どうしてこんな
 表情でこの場所にいるのだろうか」と考え、妄想を繰り広
 げる。ミレーの「オフィーリア」には、漱石の病んだ心に
 響く美しさが溢れていた。ここで「オフィーリア」と出会っ
 たのち、帰国後、漱石は、オフィーリアを思わせる那美さ
 さんを登場させた「草枕」を執筆することになる。オフィ
 リアの絵画からのインスピレーションが反映された小説だ
 そうだ。

芸術を通して得られる「感動」は、心に灯を灯し、彩り
 を添える力がある。また、時には、新たな種となって芽吹
 き、新たな花、新しい作品が生まれ、また人の心に新たな
 「感動」の灯をともし、16世紀に書かれたシェイクスピア
 の戯曲をもとに、19世紀に描かれた「オフィーリア」。
 それに感銘を受け、20世紀に感動体験を昇華させて生まれ
 ました「草枕」。このように感動という種子の源（ルーツ）や、
 種子が蒔かれた先をたどって行くことは、新たな世界を見
 せてくれる。

シェイクスピア戯曲の一つ「ロミ（メ）オとジュリエッ
 ト」も、チャイコフスキーのバレエ音楽、ベルリオーズの
 作曲、グノーのオペラ、さらに、映画も制作され、古くは
 女優ではオリピア・ハッサー、映画音楽ではニーノ・ロー
 タ（愛のテーマ）が記憶に残り、最近では、男優のレオナ
 ルド・ディカプリオ。この物語が、さらに「ウエストサイ



左：東宝が池部良・岸恵子で、松竹が木村功・岩下志麻で映画化
 右：日本画家平山郁夫の「入涅槃幻想」

ドストーリー」のミュージカル、映画に繋がっている。

上記の「草枕」から連想し、同じく温泉地を舞台とした
 川端康成の「雪国」の島村と駒子の関係が「草枕」を参考
 にしたとする文献・手紙でも発見されると、これまた大発
 見である。

また、日本画家平山郁夫の「入涅槃幻想」。入寂の釈迦
 を悲しんでいる、弟子たちが悲しみに沈んでいる、悲しみを
 抑え、静寂な中を鳥たちは飛び交っている様を見事に描
 き切った代表作の一つ。この絵も「オフィーリア」の影響
 が感じられると思うが…。

私の想像・妄想は果てしなく続く。

ツアーでの最終日の午前は2階建てバス（ダブルデッ
 カー）でロンドン市内観光。

午後は自由行動で、ノッテングヒル、アビーロードなど
 の市内観光、買い物、美術館、大英博物館、日本で予約し
 たミュージカル、シェイクスピア劇観劇等に散った。

私と家内は、「あの有名ファンタジー映画シリーズのロ
 ケ地も巡るロンドン市内午後徒歩観光」に申し込んでいた。
 真夏に日本を出発したが、イギリスは20℃以下の世界。
 参加は我々2人のみ。雨の降る寒いセント・ポール駅出口
 2番でツアーガイドと合流し、ハリリーポッターゆかりの地、
 撮影場所等の説明を聞きながら南下し、テムズ川を渡り
 テート・モダン前を左に回り、シェイクスピア・グローブ・
 シアターへ。建物は屋根があるように見えるが実は、中国
 の円形集合住宅「福建土楼」のように円形周辺の建物には
 屋根があるが、内部は屋根がなく実質野外劇場。何人かが、
 日本で予約していたが、雨と寒さで観劇も大変だっただろ
 うと心配。

シェイクスピア劇と日本の歌舞伎は、ストーリーもわ
 かっている、演技者の個性、熟練度で見る人の評価が変わ
 る点では同じようにも思う。卓越した人間観察眼からなる
 内面の心理描写を俳優が人間の普遍的な性（さが）を機微
 にくみ取って、顔、手、体全体を使って繊細に表現し、人
 間の心の奥に響くセリフ回しで喜怒哀楽を観客に届けるの
 は同じであるが、同じ古典劇でも大きく違うのは、シェイ
 クスピア劇は、役者のセリフが数世紀前の言葉であるが現



左から

映画「007」でおなじみのMI6本部。英国秘密情報部本部だが、この建物は目立ち過ぎ。

秘密の「9と4分の3番線」各自好きなポーズをとって写真を撮る。

チャーチルの銅像とビッグベン。かつての大英帝国の栄光が偲ばれる。

威容を誇るタワーブリッジ。英国の象徴的建造物の一つ。一つ上流に架かるロンドンブリッジとよく間違われる。ロンドン塔よりの眺め。

代でも通用して使っている点で、歌舞伎の言葉は現代では殆ど使われていない。最近の歌舞伎はこの点を反省し現代語を使ってわかりやすくしている事もあるが、笑いを誘ったりする時にアドリブ的に使われるくらいである。とにかく、英国では15～16世紀の言葉が現代でも使われているのは、いっそう芝居が理解でき愛着もわくだろう。ストラットフォード・アポン・エイボンにあるロイヤル・シェイクスピア・シアターやロンドンのシェイクスピア・グローブ・シアターで主に公演される。また、シェイクスピア作品のセリフは格言としてよく引用されている。

いずれも人類の至宝でもある。

次いでエリザベス一世時代のキャプテン・ドレークが用いた軍艦（海賊船）、ゴールデン・ハインド号を見て、細い裏通りを巡ってあの有名な「バラマーケット」へ。ハリポッターにも出てくるロンドン市内で有名なグルメ市場。チーズ、スイーツ、オーガニックな野菜、アルコールなど何でもある感じでごった返していた。昔の年末のアメ横を拡大した雰囲気、ロンドンの下町の賑わい。ファーストフードの食物店も多く、なかでもスペイン料理のパエリアが大人気で、長蛇の列。建物が古く、人が多い雑踏で、スリがいるからと注意されていたから、何も買わず見学のみ。次いで、ロンドン橋を渡ってテムズ川北岸へ。USJにもあるロケ地の「レドンホールマーケット」へも。王立証券取引所、イングランド銀行、ロイズ・オブ・ロンドン等の建物を見て、キングスクロス駅へ地下鉄で移動。ハリポッターが魔法学校に行くときに乗る「9と3/4ホーム」があるが、実際のホームから離れた奥の別の場所の壁に旅行鞆を積んだ手押し車が半分くらい壁に入っている状態の場



バラマーケット



レドンホールマーケット

所があり、多くの家族、友人グループの観光客が一時間くらい並んで、ポーズをとりながら写真を撮っていた。観光客が写真を撮り終え次のグループが写真を撮る合間が我々関係ない人間のシャッターチャンスであった。隣にはお土産屋があり、ここもごった返していた。丁度、2万歩歩いた。

ロケ地の店はお土産屋さんにも替わっていたりして、原形をとどめないところもあったが、ハリポッターの世界に入った気分楽しんだ。午前の一一般的な市内観光と違い、普通の旅行では味わえなかった日常のロンドンっ子の生活空間の中に入っていったようで興味深かった。最後に、ツアーガイドとお茶をして、ロンドンでの生活をあれこれと聞き、ここでどのように暮らしているかを知った。

また、屋内や車内ではスモーカーは皆無だが、街を歩いても、行列に並んでも、スモーカーが極めて多い。日本では歩きながらのスモーカーはほとんど見ないが、こちらは所かまわず、お構いなしで吸い殻があちこちに落ちており、マナーは極めて悪い。タバコは高いが、よく売れている。世界進出しているJTの配当は高く、株価も高い。

なお、イギリスとは、日本だけで呼ばれている国名で、英国とも呼ばれている。16世紀にポルトガル人が日本に渡来し、ポルトガル語でイングランドを意味する Inglez（イングレス）の日本語となり、「英吉利」の漢字を当てて「英国」と呼ばれるようになった。日本以外では中国が「英國」と表記している（中国語の中には、日本語からの転用が多い）。日本では戦国時代から江戸時代初期に日本を訪れたイギリス人ウィリアム・アダムスやオランダ人ヤン・ヨーステンがいて、家康に重宝され、前者は三浦按針という名前と領地をもらい、後者ヤン・ヨーステンも領地をもらい、そこが今は八重洲と呼ばれている。その頃はまだUK（連合王国）は存在しておらず、彼らは単純に“イングランド人”と呼んでいたらしいから日本人には特に違和感も無かったのではないかと思う。鎖国を行っていた江戸時代に国交のあったオランダが、イングランド人の国をオランダ語の Engelsch（エングレス）を語源とする「エ

ゲレス」と呼んでいたもので、そのままオランダ訛りでの呼称になったようだ。当時、英国＝イングランドでよかったが、やがて、18世紀になり、英国＝UK（イングランドがウェールズ、スコットランド、北アイルランドを併合し連合王国）となり今日に至っている。

しかし、今日、日本では“英国＝イギリス”で使われているが、先に述べたように元々はイギリスとはイングランドのことで、ウェールズ、スコットランド、北アイルランドの人々は、自分たちはUK人でイングランド人ではないと思っている。よって、英国（イギリス）＝イングランドはご法度である。

以前ウェールズに行ったとき、学校ではウェールズ語が教えられ、看板の地名も英語とウェールズ語の併記であった。その時留学中であった友人の近藤光男君（土木工学科）から英国＝イングランドと決して言わないようにくぎを刺されたのを覚えている。英国を Britain、英国人を British と言うように言われた。イングランドが連合王国を形成し UK となったが、ウェールズ、スコットランド、北アイルランドの「国民」は、決して UK＝イングランドとは認めていない。イングランド人に支配されているとは認めないスタンスで、自治権を持つ「各国」はあくまでも対等な連合王国構成国であるとする。英国人は、プライドが高く独立心が強い国民性である。

ツアー本体が朝に帰国した日、我々2人はナショナル・ギャラリー正面、ギリシャ神殿風柱の下で、今日のプライベートツアーコンダクターの「ゆうきさん（女性）」に、時間どおり10時前に合流した。『大英博物館の元学芸員を指名可能！ロンドン2大博物館「大英博物館」&「ナショナル・ギャラリー」』というツアーに2名で申し込んでいた。

プライベートにツアーガイドを雇うのは贅沢だが、家内が大塚国際美術館のボランティア・ガイドをしているので、今回の旅行を大変楽しみにしていてガイドの勉強ももっとしたいとの事で、美術館や博物館訪問をいろいろ織り込み、日頃の感謝を込めて旅行最終日に、このプライベートツアーを彼女にプレゼントした。

ロンドン・ナショナル・ギャラリーは、ルーブル美術館やプラド美術館のように王室のコレクションを一般に開放することで始まった美術館とは異なり、実業家や市民コレクターらの寄付によって、作品群を充実させてきた。18世紀以降、日の沈まぬ帝国を築き政治・経済で世界をリードする大国になってきたが、イタリア、フランスのような文化先進国に比べ文化後進国であった。そのため「西洋絵画を網羅するコレクションをイギリスに」とする初代館長の方針で、自分たち市民が教養を身につけ、学ぶことで文化的・社会的な国力向上を目指そうと、追いつけ追い越せとばかり、スペイン、フランス、オランダなどのヨーロッパ絵画も豊富な財力を背景に収集された。今日のアメリカのワシントン・ナショナル・ギャラリー、ニューヨーク・メ

トロポリタン美術館、日本の国立西洋美術館（松方コレクション）などのロールモデルとなった。教育目的で集められたコレクションは、王室のコレクションのように個人の趣味嗜好に偏らず、幅広い時代や地域を、選り抜きの世界的名画を含み、各国、各時代の傑作、良質な作品が集められ、今日では「西洋美術の教科書」的美術館として、評価されている。

「ゆうきさん」が選んだ絵の説明は次の11枚である。ヤン・ファン・エイクの「アルノルフィニ夫妻の肖像」、ダ・ヴィンチの「岩窟の聖母」、ラファエロの「アレキサンドリアの聖カタリナ」、ホルバインの「大使たち」、ピーテル・パウル・ルーベンスの「サムソンとデリラ」、レンブラントの「63歳の自画像」、フェルメールの「ヴァージナルの前に立つおんな」、ベラスケスの「ヴィーナスの化粧」、カラヴァッジオの「エマオの晩餐」、そして、ターナーの「解体のために最後の停泊地に曳かれていく戦艦テメレル号」。ゴッホの「ヒマワリ」も選んでいたが、9月より2025年1月まで開かれるヴァン・ゴッホ展開催準備のため展示がなされてなかった。残念であったが、2021年1月に大阪の国立国際美術館で行われた「ロンドン・ナショナル・ギャラリー展」で観たので、良しとした。

絵を観て、どのように感じるか、絵の中にどのような暗示、主張、読み解くためのアイテム、何を挿入して描き巧みな表現をしているか、一枚の絵の中に大きな世界が詰め込まれている巨匠の絵の解説を受けた。何にもまして貴重な体験だった。目から鱗が落ちるとはこの時のようなことを言うのであろう。

次に、地下鉄を利用して、大英博物館へ行った。両館とも入場は無料であるが、長蛇の列。予約してくれていたおかげでスムーズに入館できた。まず、大英博物館の成立から今日に至る流れを説明してくれた。大英博物館から、ロンドン・ナショナル・ギャラリーが分院し、さらにそこからテート美術館へと続く流れも。

エジプトの「ロゼッタ・ストーン」は3段に3つの言語で同じ内容が書かれていたので古代象形文字の解読ができた話。エジプトの「ラムセス2世の像」、メソポタミアの「人面有翼牛」メソポタミアの「ライオン狩りの壁画」、



ラファエロの「アレキサンドリアの聖カタリナ」



カラヴァッジオの「エマオの晩餐」



左：本来ならアテネのパルテノン神殿にあるべき素晴らしい彫刻群。今、帰属問題が生じている。
 右：ラムセスは、ひげの生えた人間の顔、鳥の翼を持ち、ライオンまたは牛の体を持つ不思議な動物だ。

行。今は最新のエアバス A350-1000 だが、8月はボーイング 777 (トリプル7)。ロンドンから羽田への飛行は14時間余りであるが、疲れていたためか、ラウンジでワインを飲み過ぎたためか、機内で10時

ギリシャの「パルテノン神殿」現地は建物の柱のみで彫刻はここにある。いずれも素晴らしいという領域を超えている。サンピエトロ寺院の「ピエタ」を凌ぐかも。エジプトの「ヘヌトメヒトの棺セット」、メソポタミアの「ウルの山羊」、イギリスの「サットン・フーのヘルメット」、イギリス/ノルウェーの「ルイス島のチェス駒」などを午後4時まで、各作品を前に歴史的背景とその意義、価値を説明していただいた。古代の人の想像力や創造力が素晴らしいのを再確認。

専門の元学芸員からの説明を、プライベートで、この2大ミュージアムで受けた事は一生の思い出に残る贅沢。そして、帰国後、メールでゆうきさん作成の解説資料をプレゼントされた。

間近く寝入ってしまった。着陸2時間前に、「Last order になりますが、何かお飲み物が食事はよろしいですか？」とCAに起こされた。果物、アイスクリームの他に、食事はメニューの中で和食を選んだが、腹も空いていたためか、これがまた大変おいしかった。久しぶりの和食に、日本に帰って来たとの実感を得た。年を取ってくると、日本が一番だなと感じる。

James Bond will return. 007のエンドロールに毎回出てくる。英国は、時間と元気があったらもう一度訪れてみたい魅力にあふれた国だった。

旅行をしながらこう考えた。I will return to Britain.

JAL44 便。ヒースロー LHR (19:20) 発、羽田 (HND)

～自分史の記録～

お遍路結願 2015

昭和45年度機械
 古鍛治 義 広

【お遍路決断の背景】

- ① 現役50歳ごろ、(株)小松製作所大阪工場品質保証部で勤務中に「心筋梗塞」で倒れた。隣の同僚が救急車を呼んでくれ、救急病院で緊急手術を受け、生き永らえた。その後、カテーテル検査を繰り返すも良ならず、最後の治療手段として「バイパス手術」を敢行、なんとか成功し現在に至っている。(※倒れる一週間前、日本アルプスの唐松岳、五竜岳登山を実施しており、そこで倒れていれば今は無いであろう)
- ② 自分は、その時、「**生かされている!**」と強く感じた。バイパス手術後、安定した体の状況から、「生かされたことに感謝!」の想いで、定年65歳の最終月に、かねてからの念願であった「四国八十八ヶ所お遍路感謝の旅」に出た。
- ③ 2015年4月18日から5月30日まで、「43日間」で四国八十八ヶ所を「通し打ち」完了。結願(けちがん)後、2015年11月6・7日にはコマツの山仲間と一緒に、約8時間かけて山を登り、「高野山奥の院に結願報告」。今回は、一連の旅の途上での想いをここに記す。

四国 88ヶ所霊場・札所・お寺！



全行程：約 1200km の歩き遍路道

- ① 第一番札所 霊山寺 (りょうぜんじ) からスタート。全行程 1200km、1400km ともされる長丁場の遍路道。
- ② 今、振り返ればよく歩いたものだと思う。当時は、結願後 70 歳で再び歩き遍路を考えていた。それは コロナで遮られ、今は体力が心配…どうなるか？

霊場・札所の巡り方！

お遍路でお参りすることを「**打つ**」といい、八十八ヶ所の霊場を巡る順番に決まりはありません。以下に、代表的な巡り方をご紹介します。

- **順打ち**…
打ち始めの札所から番号順に四国を時計まわりに巡拝すること。一般的な巡り方です。
- **逆打ち**…
打ち始めの札所から番号の逆に四国を反時計まわりに巡拝すること。順打ちよりも功德があるとされる。
- **通し打ち**…
八十八ヶ所の札所すべてを一度に続けて巡拝すること。※今回は歩きで通し打ちを実行
- **区切り打ち**…
八十八ヶ所の札所を日にちを何回かに分けて巡拝すること。近年、増えている巡拝方法です。
- **一国参り**…
四国を各県ごとに区切って巡ること。

(お遍路実績)

- ◆ 第1回：車、区切り打ち
- ◆ 第2回：歩き、区切り打ち (約4年)
- ◆ 第3回：歩き、通し打ち ※今回の記録 (43日間)

お遍路計画書 (歩き 通し打ち)

<お遍路3大方針>

- ① 良き出来事も、悪しきことも、起こることすべてに感謝！
- ② 「歩きを原則」とするが、体調不良時は無理をしない！
- ③ 1日1回は自宅に連絡を入れる！

県	日数	月日	曜日	札所	宿泊場所
徳島県	1日目	4月18日	土	1番 霊山寺 2番 極楽寺	
高知県	10日目	4月27日	月	24番 景徳寺	旅館うらしま
	11日目	4月28日	火	25番 津照寺	山郷旅館
	12日目	4月29日	水	26番 金剛頂寺 27番 神峰寺	住吉荘
愛媛県	24日目	5月11日	月	40番 観自在寺	旅館きさらぎ
	25日目	5月12日	火	41番 龍光寺	三好旅館
	26日目	5月13日	水	42番 佛木寺	平和島グランドホテル
	27日目	5月14日	木	43番 明石寺	まつちや旅館
	28日目	5月15日	金	44番 大宝寺	新町荘
	29日目	5月16日	土	45番 岩屋寺	えびすや旅館
	30日目	5月17日	日	46番 浄瑠璃寺	和佐路
	31日目	5月18日	月	47番 八坂寺 48番 西林寺 49番 浄土寺	たかのこのホテル

宿色々



お遍路計画書 (歩き 通し打ち)



仕事や QC 活動と同じで「計画」は大変重要です。

- ① 「お遍路3大方針」を立て、きめ細かい計画を立案した。当初は、45日で計画立案。
- ② 過去2回の経験を生かして、宿泊先は「以前と違う宿」を選定。
コースは、今回も、へんろみち保存協会発行のバイブルともいえる書籍を参考にした。

📖 知って得するワンポイント

お遍路とは！

お遍路とは、今から約 1,200 年前、お大師さま (弘法大師・空海) が人々の災難を除くために開いた八十八ヶ所の霊場を巡拝すること。また、お遍路をする人を **お遍路さん** (お四国さん) といいます。

昔は世捨ての旅として知られた、全行程 1,200km にもおよぶ厳しい道のりの四国八十八ヶ所巡り。かつてのお遍路は、家内安全・病気平癒・先祖供養など、現世や将来を願う「祈りの旅」でした。



近年では、信仰によるもの以外に、健康のため、ストレス解消のため、「自分自身を見つめ直す」ため、観光としてなど、さまざまな目的で巡られています。

- ① お遍路を一度経験すれば、又巡礼に廻りたくなくなると言われている。これを「お四国病」と言う。
- ② お遍路宿で、お遍路さんと情報交換するが、色々な想いで巡られている。多くは語らないが…。

「同行二人ドウギョウニン」の意味！



梵字につづいて「南無大師遍照金剛」「同行二人」と文字が入っています。

「同行二人」とは、お遍路がお大師さまとの2人旅であることを意味します。1人で歩いていても、常にお大師さまがそばにいて、その守りを受けているという、長く厳しいお遍路において心の支えになる言葉。菅笠に記されている他、お遍路をしていると、さまざまな所で目にします。

- ① 「同行二人」を感じることもある。深い山の中のコースで日が暮れるのが予想以上に早いと、周囲は真っ暗。誰もいない、暗闇の中で不安になる。その時、杖の鈴の音色が励ましてくれる。お大師さんが付き添ってくれていると感じた。同行二人とはこの感覚だ。

お接待とは！

お接待とはお遍路の道中、地元の人が食べ物や飲み物などをくださったたり、一夜の宿を提供して下さる風習です。お接待をいただいたときは、納札を手渡します。お接待は、お遍路に対しての布施行として功德を積むことができ、「自分に代わってお参りしてほしい」という代参の意味も込めた無償の行為なので、申し出られた際は断らないのがマナーです。しかし、車で送ってくださるといったお接待の申し出がある場合、全てを歩いて回ると決めている方は「歩くことを行としております」と断っても構いません。



- ① お接待には、本当に感謝。なぜ？ここまでの事ができるのか。あるお婆さんは、私も巡りたいけど足が悪くて行けません。私の替わりに元気に回ってください！と…。
- ② お接待にも、多くの人の想いが込められている。有難

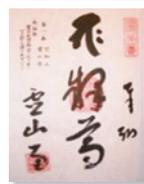
くお受けした。しかし、小学生の子供からのお接待500円は、なかなか使えなかった。大事に保管した。

納経帳とは！

納経帳 (のうきょうちょう)
四国八十八ヶ所専用の帳面「納経帳」は、B5サイズのものが一般的で、ページには八十八ヶ所、高野山奥の院のページも用意されています。



各札所では、「奉納」の文字に加えて、御本尊を表す梵字や御本尊の名前、あるいは寺院の名前を墨書してくれます。さらに札所の番号などの朱印を押してくれます。



納経帳は「極楽浄土へのパスポート」と一般に広く理解され、自身の死後にお棺に入れて欲しいと希望される方が多く、お遍路をお参りされる方のほとんどが、納経帳に御朱印を集めておられます。納経料金＝1ヶ寺 300円 (当時の料金)

- ① 納経帳は現在3冊保有している。墨書きはまるで芸術の世界。素晴らしい絵画を見る様な想いで眺めている。
- ② お寺一つ一つ全て特徴ある墨書きが88枚綴じられている様子は、本当に美しい。芸術だ！

お遍路を終えて！

1. 43日間、毎日25～35km歩き続けられた事に、感謝！
感謝！
●健康でなければ出来ない！
●時間がなければ……………！
●お金がなければ……………！
2. 毎日が試練 (楽な日などない) 中、やり遂げた充実感・達成感には凄いなものがある。自信らしきものが湧いてきた (何でもできる)
3. この自信は、これからの全ての仕事・行動に大きな力となる。
4. 付帯効果…体重は△5kg
腰周りがスリムに。脚力が随分強くなった。

自分自身に感謝！
家族に感謝！
出会った人達に感謝！



世の中の出来事は全てが勉強！

お遍路を終えての感想は？と聞かれれば一言「感謝！」
●自分自身に“感謝” ●家族に“感謝！”そして
●出会った人達、全てに“感謝！”
なかなか、声に出しては言えないが、心の中では…。
“ありがとう！”、世の中に“恩返し！”したい

お遍路からの学び (QC・改善・業務の進め方に相通ずるもの)

1

1日たりとも、楽な日はなかった。

43日間を振り返ると、毎日が試練の繰返しであった。今日は20キロと距離が短く楽に行けると思い気や、真夏日・急坂の繰返し、国道沿いの狭い道でダンプに安全を脅かされる。休憩場所がない。街中だから楽だと思っていると、道を間違えとんでもない方向へ。汗でべとべと。風呂に入り、すぐにでも汗を流したい。しかし4時まで待って下さいと言われる。……必ず何かが起こった。



☆世の中、常にこの様なものではないか。自分の思いどおりに、又、楽に仕事したいなんて考えても、上手く行くわけがない。楽な日はないと覚悟して物事に当たる姿勢が必要だ。覚悟があれば、どの様な試練にも打ち勝てる。

大袈裟な言葉かもしれないが、“何でも出来る！”とお遍路後に、思える様になった。後輩達から、古鍛冶さん、そんな精神論を言われてもと言われそうだが…。自分では、真面目にそう思っている。“後輩達よ、覚悟があれば、何とかなる！”

2

きめ細かいPlan (計画・準備)の大切さを思い知る。

1. 毎日、宿 (民宿・ホテル) でやること。
 - 洗濯…毎日汗でびしょり
 - 足のマメの処理、筋肉の癒し
 - 家族への無事連絡
 - 1日の簡単な反省メモ
 - **明日・明後日の計画・準備**
 - ・明日のコースの確認 (距離?・山か国道沿いか・坂道は、何m登る?)
 - 寺をいくつか打つ場合は、大体の目安時間
 - ★時間がかかりそうなら、朝出発時間を早める。宿の朝食を止めることも。コンビニ朝食。コンビニ・スーパーが通り道にあるか?
 - ★地図にあっても、休業の所も多い。
 - ・水を確保できるか。自販機がありそうか。…早目に購入、予備を必ず準備
 - ・天気予報は?大雨か小雨か?雨具・防水の準備、取出し易い位置へ。

☆行き当たりばったりの行動では必ず失敗する! 予測・シミュレーションを。

計画にも、大・中・小の計画がある。特に難易度の高い仕事や改善活動では、目的達成のプロセス毎にPlanが必要である。常に先を見据え、仮説を立てながら計画を立案し進める。プロセス毎のCheckも欠かさず行う。※小さなPDCAのサイクルを確実に回すこと!

3

Planを自分が立て、Doを自分で実行。全て自分が責任を持つ。思いどおりいくと思うな。問題には素早く対処。

1. 今回、44日間の日程を細かく検討し、宿を事前に全て予約。これは大きな冒険。体調を崩せば、全て宿をキャンセル・再予約となる。5月末まで決められた納期でやり遂げなければという厳しさがあつた。(5月連休を挟み、宿が満員になる恐れもあつた。宿確保に苦しむ人も見た)
2. 途中で、小休止できる日を2日ほど繰り込んだ。これは正解 (大雨の日にあたる)。
3. 結果は、奇跡と思えるほど、計画通りに運んだ。
4. その中でも、宿を数回変更した。足に自信が持てると、15キロでは勿体無いと感じる様になる。臨機応変に計画を小修整することは大切とも感じた。



☆持病の関係から無理は禁物。しかし、如何に上手く計画しても、ムリすべき時が必ず出てくる。自分の判断で、小修整は常にやらなければならない。上手くいかないこともあるが、自分で決めたことだ。全て自分の責任だ。

ビジネスを進める場合は、チーム活動が多いと思うが、リーダーでなくチーム員であっても、計画段階では自ら計画・企画に積極的に入り込むこと。他人から与えられた計画に従うのではなく、計画案に、自分の考えを織り込むこと。他人事ではなく、当事者意識を持つことが大切だ。

4

目標があればこそその達成感・充実感である!

- 最終目標…八十八ヶ所の札所を廻ること。それも、「通し打ち」で結願すること。⇒その為には、
 - 一日一日を、無事に終えること。
 - 一日に打つ札所の数が3つであれば、



1つ目、2つ目、3つ目と、1札所ずつクリアしていかなければならない。

☆大きな目標を達成するには、小さな目標を1つ1つクリアしていく。
 小さな目標の積み上げが、大きな成功に繋がる！
 ☆最終ゴールと通過点ゴールの設定が大切！

会社の目標は2つで、① 利益確保 ② お客様満足度向上
 これらを達成するためには、一足飛びでの解決策などない。色々な視点で検討をして、やるべきことを一つ一つ積み上げていく姿勢が重要だ。自分の仕事であった品質保証活動や QC 活動での学びです。

5

達成感・充実感を得るには、成果物が必要。その成果は、目に見えなければならぬ。

苦勞して、*番札所（お寺）に到着し納経を済ませて、納経帳に墨書きと朱印をもらう。

これで一段落終了。この区切りがあるから「終わった」との実感が得られる。納経帳に1つ1つ実績が積み上がる。なんと素晴らしいことか。



☆苦勞した結果を見える化しよう。言葉だけではダメ。形にこだわれ！

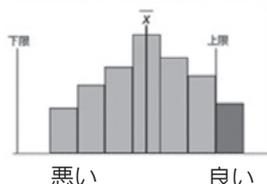
人は単純なもので、仕事に真剣に取り組んでも成果が目に見えなくては達成感・充実感は得られません。成果が見える様な「見える化」の工夫が必要です。お遍路での「納経帳」をめくるたびに、「よく頑張ってきた。明日も頑張ろう！」という気にさせてくれた。

6

宿にも色々ある。とても良かったと思える宿と全くダメな宿。このばらつきこそが世の中の真の姿ではないか。

今回は、「宿の良し悪しに文句はつけない。全てを受け入れる」の方針でお遍路に出た。

(以前のお遍路の経験から) 42の宿に泊まったが「料理・風呂・部屋・トイレ・ふとん・応対・金額」の項目で評価すると完璧な宿はなかったが、十分満足している。



各々良い所がある。悪さだけを見るのではなく、良い点を見つければ満足できるものだ。

☆悪さばかりを見れば、どうしても批判したくなる。それより、もっと良さ・良い点を見よう。そうすれば、穏やかな気持ちになれる。
 ☆しかし、心の中で「他の宿の状況をベンチマークしてはどうですか」と言いたくなる宿も。QCを勉強すれば改善すべき箇所が一杯見つかりますよと言いたくなることも。

QCの指導時には、仕事の結果は必ずばらつく。ばらつきの要因である4M（人・機械・材料・方法）の管理の大切さを説明する。コマツの様なモノづくり現場ではバラツキを常に意識するが、今回、客商売の現場でのばらつきの大きさにも驚かされた。これも、お大師様のお導きだ…？

7

宿もばらつくが、人もばらつく。宿で、お寺で出会う人が多いが、印象の良い人・悪い人にも出会う。

同じ付き合いなら、気持ち良く付き合いたいものだ。自分の意見は全て正しい、相手の意見を聞かず批判ばかりの人がいた。

彼は、その見苦しさに、たぶん気付いていないのだろう。人の意見には、必ず1つぐらいは真実・誠・納得できる・良い点が隠れているものだと思う様に心掛けた。人の意見を全否定してはいけない。決めつけてはいけない。よく聞こう。聞いてみよう。

又、挨拶の出来ない、自分勝手な可哀想な若者に出会った。自分ではその行動の悪さ加減が多分わからないのであろう。

☆いろいろ多くの人の「良さ・悪さ」を見た。振り返って、自分はどうか？同じ事をしているのでは…と反省させられる。

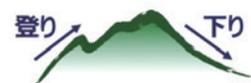
QC大会発表時の講評ポイントは褒める事。下手な発表でも、発表まで漕ぎつけたことは大変な成果である。褒めて良い気分にしてあげて、一言アドバイスする。世の中、良いことばかり・悪いことだけではないと思う考え方も必要。

8

「登り」があれば、必ず「下り」がある。

歩き遍路コースには、ほぼ毎日、山や峠や坂道がある。厳しい坂道も多い。

斜度が低くても延々と続く坂道、かんかん照りの坂道、滑り



易い坂道、20キロ歩いた最後に急坂…
嫌な登りでは、「1歩1歩、半歩でもよい。1つ1つ前に進むのだ」と言い聞かせつつ歩いた。
それで全ての登り坂道をクリアした。
その苦しみの中には、必ず一息つける下りがある。しかし、下りを終えて初めて完了することを忘れてはいけない。

☆今回の43日間・1200キロは、この1歩が半歩がなければ成し遂げられなかった。これ程、1歩の大切さを痛感したことはなかった。
登りの苦しみの後には、楽な下りが待っている。しかし、その楽はいつまでも続かない。楽が続き過ぎると、苦しみに変わる。長い下り坂は足の関節を痛めつけ、いつのまにか、楽が苦痛に。
世の中の出来事はすべて、山の様なものだと思う。

仕事や改善活動には、必ず波がある。良いこと、悪いこと。
今の時点で悪いことばかり続いていても、いつか良いことに会わずと考えよう。山あり、谷ありが人生だ。自分なりに頑張ったと自己評価できるぐらいまでは真剣に取り組め。

9

予想どおりにはいかない。

前日計画は立てても、朝になると天候がガラリと変わることも多い。
1時間歩き、3分ほど休憩するが、休む場所が見当たらず、1.5時間歩き続けることも度々ある。やっと見つけたコンビニで休憩予定が座る場所がない。
疲れたからと、距離の短い国道沿いコースを選択したら歩道がアップダウンの繰返し、歩きにくい。逆もある。国道沿いの道に、大型ダンプが通ると強い風を吹き付けてくれる。風のない、暑い日は嫌なダンプも仏様。
何かが起こるが、最後には到達できた。

☆計画達成のため、良いと考えた変更を躊躇しない。プロセスは常に化するものだ。臨機応変な対処が必要であるが、常に良い結果になるとは限らない。最終ゴールを明確にしておけば、プロセスがどうであれ、いつか目標に到達できる。

当初立てた計画に固執してしまうことがある。その段階での仮説であると認識しよう。世の中激しく・急激なスピードで変化している。変化に対応したアクションこそが大切だ。
計画変更には躊躇するな。

10

実体験しないと、本当のアドバイスは出来ない。 頭だけのアドバイスは真のアドバイスとはならない。

宿で同宿のお遍路の皆さんと情報交換をする。
その時に感じることは、経験を積んでいる人の言葉の重さ、訴える力の大きさ、強さ。
人に伝える、伝わる力は、実体験をした人にはかなわない。やはり迫力が違う。



☆ QC活動でも、仕事でも同じであろう。
頭だけ、知識だけに頼ってはいけない。自分で体験してみることが大切だ。特に、指導する立場の人は他人に隠れてでも自ら体験してほしい。その様な心構えを持って欲しいと思う。
自分にも言い聞かせている。

部下や後輩に教える時に、「教育と訓練」の違いをよく言う。

教育：知識をつけること。
訓練：実際にやってみること。

知識は大切だが、それが実行されなくては何の価値もない。教育と訓練が一体でなければならない。事務所に座って頭だけで仕事をするな。三現主義とはそういう事だ。

11

道具に完璧さを求めてはいけない。 信じすぎてはいけない。

今回の旅は、山用道具のリュック・ザックカバー・合羽・簡易登山靴を使用した。新たな気付きが多かった。
足摺岬から愛媛への山越え日は、1日中大雨だった。山用道具使用のため問題なしと思いきや、問題だらけ。GORETEXの合羽も、ザックカバーも、登山靴も雨対策に役立たず。
耐水性・有効性を信じ過ぎていた。
道具はある程度の性能はあれど、完璧なものはないと、思い知らされた。



☆ QC活動でも、7つ道具などを使って改善するが、道具はあくまでツール・補助具であり、それに頼り切ってはならない。限界があることを知ろう。

信じすぎてはいけないことの一つに「データを信じすぎるな」が。

私たちは、「統計データ解析結果です」と示されると、何となく信じてしまいがち。統計、数字には、落とし穴がある。罠があることを知っておく必要があります。

- 思い込みで判断しない！
- データの中身・意味をよく理解して使う！ ex. 平均値

高野山奥之院 結願報告（お礼参り）

四国八十八ヶ所は、すべて巡礼が終わり結願すると高野山へお礼参りに行く習わしがあります。



四国お遍路のお礼参りは、金剛峯寺ではなく、お大師様が即身成仏された「奥の院」へお参りします。奥の院は、お大師様が入定されている聖地であり、諸大名の墓石や、祈念碑、慰霊碑の数々が樹齢千年に及ぶ杉木立の中に立ち並んでいる厳かな雰囲気のある場所です。

高野山のお礼参りを登山仲間と

こうやさんちょういしみち 南海高野線 〔高野山町石道 九度山駅(九度山町)〕

聖地高野山への表参道である高野山町石道は、弘法大師空海が高野山を開山して以来、信仰の道とされてきました。その道しるべとして建てられたのが町石で、高さ3メートルを超える五輪塔形の石柱が、根本大塔を起点として慈尊院まで180基、弘法大師御廟まで36基建てられています。その8割以上が鎌倉時代に建立されたもので、今なお昔の面影を残しています。かつては町石ひとつひとつに礼拝して登ったと言われる高野山町石道ですが、現在は道も整備され、180の町石を数えながらハイキング気分で行けるコースになっています。



祈りの道・高野山石道と呼ばれています。高さ3メートルを超す「五輪塔形の石柱」が、九度山駅から大門まで道標として180基設置されています。約20kmを8時間かけて登る気持ちの良いコースです。

記録に残そう！水彩画の四国八十八ヶ所(例)



四国八十八ヶ所お遍路の旅を記録に残したいとの思いで、趣味である透明水彩画に挑戦。可能な限り、一日一枚を描く方針を進めた。完成まで相当な期間がかかったが、完成画集は見応えあるものとなった。

コットマン水彩紙 18枚綴り サイズF2 (190×240mm) 粗目用紙

更に記録に残そう！日本100名山(例)



「四国八十八ヶ所お遍路の旅画集」完成後、もう一つの趣味である「登山も画集に」の思いがつのる。

登山には、作家で登山家の深田久弥によって書かれた山岳随筆集の「日本100名山」がある。これを題材に描いてみよう！と決意。ちなみに私の100名山登山実績は、半分にも届いていない。本棚に眠っている山岳雑誌を引っ張り出し、掲載されている写真を参考にして、100枚描いた。

【初めての投稿を書き終えて】

2024年6月6日、阿南高専第4期同窓会が徳島で開催された。この場で、永遠の世話役「久米と内谷（清崎）」に感謝したい。

お二人が故郷徳島にどっしり根をおろし企画してくれるからである。今回の投稿は、西条（坂野）の「古鍛冶も投稿しては…」の一言から始まった。彼にも良い機会を与えてくれたと感謝している。

司会者からショッキングな話も。同期104名の内、13名が亡くなられたとの報告があった。その中には、軟式テニスコンピの井上、仲の良かった生田の名前も。74歳の我々には、何が起こっても不思議ではないが、各々のもつ持病を克服して次回に再会したいものだ。気力と体力を維持しよう。永遠の世話役二人から、77歳の記念の年にまた同期会をやりたいとの有難いお話があった。

その時には、古鍛冶のこの投稿駄作も酒の肴になればと思う。



フランス国土一周 回想録

昭和43年度電気

坂本五郎

3日目：シェルブール～モン・サン・ミッシェル～
サン・マロ～ポントルソン (HOTEL DE LA POSTE)

モン・サン・ミッシェル

三日目、ここシェルブール、港に面したホテル・メルキュールで心地よい朝を迎えた。ホテルの健康朝食を大いに腹に納め、今日の行程へと進める。町を出るのは南、N13号線を南下することになる。行先はモン・サン・ミッシェルからサン・マロ。タベまでの走行はほぼ900km、今日の予定は220kmなので、やや楽(?) 南下し始めにFMラジオから流れ出たジョニー・ティロットソンの“Poetry in Motion”に心を豊かにされ、弾みをもらい、順調なスタートを切った。



図1. シェルブール～モン・サン・ミッシェル～サン・マロ

いつもながら、目的地を目指して移動するハンドルにはただ、ごく自然に“目的地へと”着いてくれればいい、との思いでアクセルを踏み続ける。今日ここまでの走行に比べ、今日これからの行程は短く、精神的負担は小さくてコタンタン半島の平道をただ南下するのみ、アウトバーンでないだけ景色も見易いだろう。この行程、物理的にはどちらかという一日目のカレイからルーアンへの道程を思わせた。ただ、異なるのは“あの時は先が見えなかったが”“今は先が見えて”おり、

かつ、ランチ目指してハンドル取ればいいのみで全体にゆとりがありました。

この旅、二日間の経験は大変貴重でかつ有効でありました。道程両側の家並みを見ながらの走行でしたが、人影は見えないのは・・・ああ、平日だからかも、とたわいないことを考えながら走行している内、街道筋の案内板に；

「LE MONTSTMICHEL,」「S^TMALLO」の表示が出始めた。ランチタイムにはちょっと早いものの、モン・サン・ミッシェル修道院（以下修道院）に入ったらランチレストランなるものがあるのか否か予測できない。従い、その手前でレストランでもあれば・・・と思いつつ走行していると、やおら遙か彼方、おぼろげに修道院の影が三角の形をして右向う（大西洋の方角）に見え始めたものだ。それに続いて、レストランが左方



図2. シェルブールから南下し、モンサンミッシェル修道院へと街道筋を急ぐ。

向に見え始めたので、私は渡りに舟とばかり、そこに滑り込んだものでした。中に入るとちょっとしたレストランでありましたが、取り急ぎ私ら家族4人で数枚のピザを平らげ修道院本山へと接続道路を走らせました、それはほんの2km程でした。

まさにこのレストラン、私らの様な顧客の為にOpenした様なレストランでしたネ。

参考までに現在の Google Mapで見ると、私らがランチ

したレストランの位置はカジュアルなレストランとホテルが一緒になったこぎれいな建物に変わっています。変わらないのは大西洋を望む窓から見える修道院の姿だけです。この、現時点でのレストランの変わり様と変わらぬ八世紀に創建された世界遺産のモン・サン・ミッシェル修道院とは対比されるに妙に十分な内容ですね。

海に浮かぶ修道院を前方にして歩を進め、門をくぐると修道院の頂上へと導かれるなだらかな坂道となっています。坂道の両側には土産物店や小規模のレストランが軒を連ねており、私ら、予めあのピザレストランで慌ててランチすることはなかったなと苦笑したものでした。



図3. 街道筋の案内板に；「LE MONTSTMICHEL,」「S^TMALLO」